

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	イタリア語複合名詞と英語表現
Author(s)	上野, 貴史
Citation	大阪女子短期大学紀要 , 22 : 43 - 50
Issue Date	1997-12
DOI	
Self DOI	
URL	http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045789
Right	
Relation	



イタリア語複合名詞と英語表現

上野 貴史

The Compound Noun in Italian and the Expression in English

Takafumi UENO

The aim in this paper is to elucidate the system of word structure in English and Italian through the Italian compound noun and the English expression. In case of neologizing, it is argued that the Italian words are lexicalized by adding the noun to the suffix and by making the compound word of the noun phrase (n+agg / n+p+n), and the English words are lexicalized by the N+N compound. This presents the character of the lexical systems in both languages.

1. はじめに

ロマンス語は、ゲルマン語と比較すると、一般的に、複合語生成において未発達であるとされる。ロマンス語とゲルマン語の語彙体系における複合語の位置づけに関する対照研究の一つとして、拙稿(1997)では、複合語が生産的である英語の「名詞+名詞」複合語とそれに対応するイタリア語表現の比較・分析を行った。この中で、イタリア語の語彙体系の特質として、接尾辞の発達や「名詞+名詞」複合語以外(「名詞+前置詞+名詞」や「名詞+形容詞/形容詞+名詞」)での語彙化、などを指摘した。このことは、新しい概念を既存の語彙によって造語する際、英語では複合語形成を多用するのに対して、イタリア語では、派生形成や名詞句での語彙化が行われるということを示している。

本稿では、さらに、非生産的であるとされるイタリア語の複合名詞とそれに対応する英語表現を比較・分析することで、各言語における言語構造・語彙構造をより明確にすることを目的とする。こ

のために、イタリア語の複合名詞を構成要素の語彙範疇で分類し、各語彙範疇での複合語が英語でどのように表現されるかを考察していく。このことを通して、イタリア語の複合語構造と英語の新語生成のメカニズムを解明していくことにしたい。

2. 資 料

イタリア語複合語¹⁾とその英語表現を考察するに当たり、本稿では、イタリア語・英語辞典²⁾における二つの要素からなる複合名詞を抽出し、それを資料として収集する。イタリア語複合語の第一要素をP₁、第二要素をP₂として、P₁とP₂に現れる語彙範疇によって複合語を大別すると、「名詞+名詞(n+n)」(1a), 「名詞+形容詞(n+agg)」³⁾ (1b), 「動詞+名詞(v+n)」(1c)に分類することができる⁴⁾。

- (1) a. n+n : ragazza madre / scalo merci / soluzione ponte / treno viaggiatori / vagone ristorante
 b. n+agg : acqua marina / gettonetelefo-

nico / luna piena / natura morta
/ vino rosso

- c. v+n : accendisigaro / acchiappanuvole
/ battipanni / bucaneve /
scaldabagno

この他にも、複合名詞としては、三要素以上からなるもの⁹⁾や「名詞+前置詞+名詞(n+p+n)」で語彙化しているもの⁶⁾などが見られたが、本稿では、二要素からなる複合語に限定して考察するため、これらを分析対象から除外することにする。

また、イタリア語複合語に対応する英語表現の最初の要素をE₁、二番目の要素をE₂とすると、本稿で扱うイタリア語複合語と英語表現の対応は(2)のように記述できる。

$$(2) P_1 + P_2 \rightarrow E_1 + E_2^{7)}$$

このようにして、収集したイタリア語複合語は、514例、また複合語に対応する英語表現は、558例となった。

3. 分 析

3. 1. n+n

イタリア語複合語において、n+nの語彙範疇からなる複合名詞は、46例みられ全体の9.0%を占める。n+n複合名詞における、最初のnをn₁、二番目のnをn₂とすると、原則的に、n₂が限定的な機能を果たし、n₁が被修飾の働きをする。

- (3) anno luce / cartacarbone / complemento
oggetto / cono gelato / governo ponte

(3)のanno luceでは、n₂であるluceが形容詞のように限定的な機能を果たし、annoを修飾している⁸⁾。従って、複合語において、n₁はhead(主要部)、n₂はmodifier(修飾部)ということになり、この構造は、(4)のように記述できる⁹⁾。

- (4) n+n複合語 : n₁(head) + n₂(modifier)

このn+n複合語に対応する英語表現を、構成する語彙範疇で分類し出現頻度を示すと、(5)のようになる¹⁰⁾。

- | | |
|------------------------------|-------|
| (5) n+n → N+N ¹¹⁾ | 42.3% |
| A+N ¹²⁾ | 34.6% |
| N ¹³⁾ | 15.4% |

n+n複合語は、英語表現においてもN+N複合

語として出現するものが最も多くなっている。

3. 1. 1. n+n → N+N

n+n複合語が英語表現において、N+Nで示されているものは、英語表現における第一要素の名詞をN₁、第二要素の名詞をN₂とすると、n₁に対応する英語表現がN₂に、n₂に対応するものがN₁に現れる。

- (6) P₁(n₁) + P₂(n₂) → E₁(N₁:n₂) + E₂(N₂:n₁)

aperegina → queen bee / cane pastore → sheepdog / confezione regalo → gift pack / pasta sfoglia → puff pastry / pesce spada → swordfish / treno merci → goods train

例えば、ape reginaでは、P₁のapeに対応するbeeがE₂に、P₂のreginaに対応するqueenがE₁に出現している。また、cane pastoreでは、P₁のcaneがdogに、P₂のpastoreがsheepに対応している。このことは、イタリア語複合語のheadが左側の要素(P₁)に生じることに對して、英語のheadが右側の要素(E₂)に生じることに起因していると考えられる。このheadが生じる位置関係を示すと(7)のようになる。

- (7) P₁(head) + P₂(modifier) → E₁(modifier) + E₂(head)

これとは、逆に、P₁とP₂の対応が英語でもE₁とE₂の順序で現れているものとして、(8)のようなものが見られる。

- (8) P₁(n₁) + P₂(n₂) → E₁(N₁:n₁) + E₂(N₂:n₂)

banconata → banknote / madrelingua → mother tongue

(8)のbanconotaは、英語のbanknoteをイタリア語の語彙に翻訳したもの、また、madrelinguaは、ドイツ語Mutterspracheの翻訳借用であり、要素の順序は、英語・ドイツ語に準じている。これらは共にゲルマン語から翻訳借用する際に、語の配列も借用したため、イタリア語の左側主要部の複合語とは異なる右側主要部の複合語を形成している¹⁴⁾。

3. 1. 2. n+n → A+N

n+n複合語がA+Nで表現されているものを、

(9)に示す¹⁵⁾。

$$(9) P_1(n_1) + P_2(n_2) \rightarrow E_1(A : n_2) + E_2 : (N : n_1)$$

scuola guida → driving school / busta paga → pay packet / giornale radio → radio news / governo ponte → interim government / libro paga → payroll / scena madre → principal scene

(9)の scuola guida は、イタリア語の modifier である guida が英語では driving という現在分詞に、そして head である scuola が school という名詞で表現されている。このように、一般的に、 $n+n \rightarrow A+N$ では、 n_2 が A として、 n_1 が N として出現する。一方、(10)で示す portafinestra における n_2 の finestra は、英語において window として E_2 の位置に現れている。

$$(10) P_1(n_1) + P_2(n_2) \rightarrow E_1(A : n_1) + E_2 : (N : n_2)$$

portafinestra → French window

これは、イタリア語と英語における複合語の要素間の機能が異なるためと考えられる。つまり、イタリア語における portafinestra は、"qualcosa è una porta ed è una finestra" (porta であり、finestra であるもの) とパラフレーズできるように、porta と finestra が同等の関係にある等位複合語である。従って、複合語内に head を限定することが不可能となる。これに対して、英語の French window は、"French window is a window" とパラフレーズできるように French window が window の一種としての意味関係を持つため、window が head となる。このようなイタリア語と英語における要素関係の差異により、(10)のような対応関係が例外的に起こる¹⁶⁾。

3. 1. 3. $n+n \rightarrow N$

$n+n$ 複合語が N として表現されているものとしては、(11)のようなものが挙げられる。

$$(11) P_1(n_1) + P_2(n_2) \rightarrow E_1(N : n_1 + n_2)$$

vagone letto → sleeper / acqua ragia → turpentine / cane lupo → Alsatian / cartapeccora → parchment / carniera lampo → zip / pescecane → shark

(11)の vagone letto は、イタリア語の modifier である letto に対応する英語表現である sleep に

接尾辞-er が付加され、vagone letto の意味を表す。このように、複合名詞を複合語要素に対応する名詞と接尾辞で表現している例は、この sleeper 1 例だけでその他のものは、次に示すような複合語要素に対応しない名詞で表現される。例えば、acqua ragia では、turpentine という全くイタリア語複合語要素に対応しない名詞で表現されている。このような対応関係にあるイタリア語複合語の多くが(12)のように同義語として単独名詞の語彙を持つ。例えば、acqua ragia においては、tremantina という同義語を持ち、この語と英語表現が対応していることになる。

$$(12) \text{turpentine} \rightarrow \text{tremantina} / \text{parchment} \rightarrow \text{pergamena} / \text{shark} \rightarrow \text{squalo}$$

3. 2. $n+agg$

n と agg の語彙範疇からなる複合語は、全体の 86.2% (443例) を占め、イタリア語複合名詞において、最も語彙化しやすい結合となっている。 $n+agg$ の語彙範疇からなる複合名詞においては、機能的に n が head、 agg が modifier となり、(13)のように記述できる。

$$(13) n+agg \text{ 複合語} : n(\text{head}) + agg(\text{modifier})$$

acqua piovana / agente consolatore / calcolo integrale / impianto elettrico / nettezza urbana

例えば、acqua piovana においては、 P_1 の acqua が head、 P_2 の piovana が modifier となり複合名詞を形成する。

$n+agg$ に対応する英語表現としては、(14)のようなものが見られる¹⁷⁾。

$$(14) n+agg^{18)} \rightarrow \begin{array}{ll} N+N & 20.1\% \\ A+N & 49.3\% \\ N & 19.5\% \end{array}$$

$n+agg$ 複合語では、英語でも $A+N$ の語彙範疇で出現するものが最も多くなっている。

3. 2. 1. $n+agg \rightarrow N+N$

$n+agg \rightarrow N+N$ では、 agg が英語の N_1 に、 n が N_2 に対応する。

$$(15) P_1(n) + P_2(agg) \rightarrow E_1(N_1 : agg) + E_2(N_2 : n)$$

frode fiscale → tax evasion / passo

carraio → vehicle entrance / pozzo
 petrolifero → oil well / scheda elettorale
 → ballot paper / sicurezza stradale →
 road safety

例えば, frode fiscale において, frode は, E₂ の evasion に, fiscale が英語表現で tax に対応しており, modifier である tax が名詞の語彙範疇で出現する. また, passo carraio においては, passo が entrance に, carraio が vehicle として表現されている. このように多くの n+agg 複合名詞が, 英語表現において N+N 複合語として語彙化することから, N+N 複合語は英語において生産的な語彙範疇であることが指摘できると思われる.

3. 2. 2. n+agg → A+N

n+agg → A+N では, イタリア語の modifier である形容詞が英語においても形容詞として表現され, head である名詞が英語においても名詞として出現する.

(16) P₁(n) + P₂(agg) → E₁(A : agg) + E₂(N : n)

accademia navale → naval college /
 bandiera abbrunata → draped flag / filo
 spinato → barbed wire / natura morta →
 still life / panna montata → whipped
 cream

n+agg 複合語である accademia navale においては, agg である navale の要素が英語でも naval という形容詞で現れ, head である accademia が college と表現される. また, bandiera abbrunata においても P₁ の bandiera が E₂ の flag に, P₂ の abbrunata が E₁ の draped に対応している. これらとは異なり, イタリア語の形容詞要素が英語で名詞に, 名詞要素が形容詞として出現しているものとして(17)のようなものがある¹⁹⁾.

(17) P₁(n) + P₂(agg) → E₁(A : n) + E₂(N : agg)

apertura mentale → openmindedness /
 strappo muscolare → torn muscle

apertura mentale においては, イタリア語の head である apertura が英語で open という

modifier として表され, mentale が英語では head の位置で mindedness として表現されている. P₁(n) + P₂(agg) → E₁(A : n) + E₂(N : agg) の対応関係は, 英語とイタリア語の head の要素が異なることから, 厳密には, 意味にも差異が生じている²⁰⁾.

3. 2. 3. n+agg → N

n+agg 複合語がNとして表現されるものには, (18)のようなものがある.

(18) P₁(n) + P₂(agg) → E₁(N : n+agg)

acqua potabile → drinking / cassaforte →
 safe / moneta spicciola → change / pane
 abbrustolito → toast / scala mobile → es-
 calator

acqua potabile は, 英語表現において, drinking という一語で表現されている. これらの中には, (19)や(20)のように, イタリア語複合語の要素の一方に英語表現が対応しているものが見られる.

(19) P₁(n) + P₂(agg) → E₁(N : n)

esecuzione capitale → execution (→
 esecuzione) / navata centrale → nave (→
 navata) / pasta alimentare → pasta (→
 pasta)

(20) P₁(n) + P₂(agg) → E₁(N : agg)

assegno alimentare → alimony (→
 alimento) / ospedale ambulante → ambu-
 lance (→ ambulanza)

例えば, (19)の esecuzione capitale においては, P₁ の esecuzione の要素に対応する execution によって英語ではイタリア語複合語の意味を表現している. また, (20)の assegno alimentare に対する英語表現は, P₂ の alimentare (alimento) に対応する alimony として表現されている.

3. 3. v+n

v+n からなる語彙範疇の複合語は, 24例見られ, 全体の4.7%を占める. v+n 複合語の名詞要素は動詞²¹⁾の直接補語としての機能を持っており, このことは, イタリア語の基本的な語順である SVO に一致している.

(21) attaccapanni / girasole / lavapiatti /
 passaverdura / poggiatesta

らの転換形容詞が多く、このようなものは語彙化する傾向にある。

$$4) E_1 + E_2 \rightarrow n+n / P_1 + P_2 \rightarrow N+N$$

$E_1 + E_2 \rightarrow n+n$ は、頻度も最も低く、意味においても「交通・スポーツ・動植物」などに限定されている非生産的な複合語範疇である²⁷⁾。一方、 $P_1 + P_2 \rightarrow N+N$ は、英語表現の中で最も高い頻度を示しており、英語複合語において最も生産性の高い語彙範疇の結合であると言える。

5. 結 論

以上、3.では、イタリア語複合名詞を構成する語彙範疇で分類し、それに基づいて対応する英語表現の考察を行った。また、4.では、イタリア語複合名詞、特に $n+n$ 複合語と英語 $N+N$ 複合語の対応表現の比較を行った。まず、3.で行ったイタリア語複合名詞と英語対応表現をまとめると、表2²⁸⁾ のようになる。

表2 イタリア語複合名詞と英語表現

イタリア語複合名詞	英語表現
$n+n$ (9.0%)	$N+N$ (42.3%) $A+N$ (34.6%) N (15.4%)
$n+agg$ (86.2%)	$N+N$ (20.1%) $A+N$ (49.3%) N (19.5%)
$v+n$ (4.7%)	$N+N$ (67.9%) N (25.0%)

このイタリア語複合名詞と英語複合語に関して、次のことが指摘できると思われる。①イタリア語複合語が左側主要部、英語が右側主要部をとるため、原則的に、 $P_1(head) + P_2(modifier) \rightarrow E_1(modifier) + E_2(head)$ という関係になる。② $v+n$ 複合語は、外心構造を持つのに対し、これに対応する英語 $N+N$ 複合語は、 N_2 に head を持つ内心構造をとる。③ $n+agg$ という語彙範疇からなる複合語は、イタリア語における主要な名詞複合語の語彙範疇である。④英語表現において、 $N+N$ 複合語以外は、語彙化するものは少ない。

次に、4.で考察した、 $n+n$ 複合語と $N+N$ 複合語の対応表現の比較から、英語が $N+N$ の語彙範疇で語彙化するのに対して、イタリア語は「名詞+接尾辞」や $n+p+n / +agg$ など統語構造を保持した形態で語彙化するということが指摘できる。これは、新概念を表現する際、英語が $N+N$ や $A+N$ による複合語形成によって新語生成するのに対して、イタリア語では、接尾辞の付加による派生成成、または、名詞句から変形操作を施さない形態での複合語生成を行うということを示している。

最後に、本稿では、辞書の見出し語を資料として、英語で頻繁に生成される複合名詞と非生産的であるイタリア語複合名詞を比較することで、各言語における語彙構造の考察を行ったわけであるが、近年、英語の影響によりイタリア語においても複合名詞の生成が多く見られるようになっていいる。今後は、完全に語彙化に至らないような複合語や英語からの借用語などを含めて、両言語の語彙体系の分析を課題としていきたい。

註

- 1) 一般的に、複合語は「二つ以上の語を結合して、新しい語を形成すること」とされるが、本稿では、辞書の大見出し・小見出しに登録されているある程度慣用的に用いられているものを一定の語彙化した複合語として分析するため、厳密な意味でこの定義に合致しないものも含んでいる。
- 2) 今回の資料収集に当たっては、*The Collins Italian Pocket Dictionary: Italian-English English-Italian*. 1982. Collins. を利用した。また、必要に応じて、*Cassell's Italian Dictionary: Italian-English English-Italian*. 1967. Macmillan Publishing Company. と *I Dizionari Sansoni: Inglese-Italiano Italiano-Inglese*. 1988. Sansoni Editore. も参考にした。
- 3) イタリア語の形容詞は、後位修飾するため名詞との統語関係は、 $n + \text{agg}$ となるのが一般的であるが、色彩形容詞や日常よく使われる前位修飾形容詞の場合は、 $\text{agg} + n$ 複合語を生成する。(1b)には、この $\text{agg} + n$ 複合語 (*alta marea / bassofondo* など) も含めて考察する。
- 4) この統語範疇以外にも、「形容詞+形容詞」からなる *pianoforte*、「不変化詞+名詞」からなる *sottopassaggio*、「動詞+動詞」からなる *andirivieni*、などが見られるが数量的に少ないこともあり今回の分析対象からは除外する。
- 5) *nontiscordardime* など。
- 6) *agenzia di viaggio / caccia alla volpe* など。
- 7) 英語表現が名詞単独で表される場合、 N_2 は \emptyset となる。 $P_1 + P_2 \rightarrow E_1$ 。
- 8) Seriani (1989: 665) "tutti composti che equivalgono a sintagmi, reali o virtuali, costituiti da un nome e da un aggettivo: *carta monetaria (cartamoneta)".
- 9) 外国語から翻訳借用された複合語や等位複合語は、 $\text{head} + \text{modifier}$ の関係とはならないが、これらについては、本論の中で述べる。
- 10) (5)で示した英語表現以外に、*madreperla* \rightarrow *mother-of-pearl* / *mappamondo* \rightarrow *map of the world* などのように Phrase (名詞句) で示されるものが5.8%見られる。
- 11) 「名詞+名詞」で出現する英語表現を示す。
- 12) 「形容詞+名詞」で出現する英語表現を示す。
- 13) 名詞単独での英語表現を示す。
- 14) $n + n \rightarrow N + N$ において、 $P_1(n_1) + P_2(n_2) \rightarrow E_1(N_1 : n_1) + E_2(N_2 : n_2)$ となるものは、3例であった。
- 15) $n + n$ 複合語が英語表現において $N + A$ の語彙範疇で出現するものとして、*cartapesta* \rightarrow *papier-mache* がある。これは、イタリア語と同様、原則として、左側主要部をとるフランス語の *papier-mache* を英語表現で使用しているためである。
- 16) $P_1(n_1) + P_2(n_2) \rightarrow E_1(A : N_1) + E_2(N : n_2)$ となるものは、2例であった。
- 17) (14)で示した英語表現以外に、*vendita amichevole* \rightarrow *sale by private contract* などのように Phrase で表されているものが6.8%、*letteratura infantile* \rightarrow *children's book* のように E_1 に名詞の所有格形が使用されているものが0.6%、*albero sempreverde* \rightarrow *evergreen* のように「副詞+形容詞」複合語が名詞に転用されているものが0.4%、*corte marziale* \rightarrow *court-martial* のように「名詞+形容詞」で出現するものが0.2%、*spese generali* \rightarrow *overheads* のように「不変化詞+名詞」の語彙範疇のものが0.2%見られた。
- 18) n と agg の語彙範疇からなる複合語において、 $\text{agg} + n$ の統語関係を持つものは、10.6%見られた。
- 19) $P_1(n) + P_2(\text{agg}) \rightarrow E_1(A : n) + E_2(N : \text{agg})$ となるものは、(17)で示した2例だけである。
- 20) 例えば、*apertura mentale* \rightarrow *openmindedness* の対応において、*apertura mentale* は *apertura* の一種としての意味を有すのに対して、*openmindedness* は *mindedness* の一種として表示されている。
- 21) $v + n$ 複合語の動詞要素の形態について、a) 命令法 b) 直説法現在三人称単数 c) 語幹など、少なくとも三つの可能性があるとされる。Cf. Renzi et al. (1995).
- 22) 外心構造以外のものとして、*cacciabandiere* \rightarrow *fighter-bomber* のように等位構造の複合語も見られる。
- 23) (22)で示した英語表現以外に、*perditempo* \rightarrow *waste of time* のように Phrase で表されるものが7.1%見られる。
- 24) 拙稿(1997)では、英語の $N + N$ 複合語に限定して考察しているため、共通の語彙範疇である $n + n$ 複合語と比較する。
- 25) *discesa in picchiata / pomodoro* など。

- 26) aurora boreale / ape operaia など.
- 27) principe consorte / nave-traghetto など.
- 28) 英語表現の中の出現頻度は、イタリア語複合名詞におけるそれぞれの語彙範疇の頻度を示す.

参考文献

- Cepellini, Vincenzo. 1990. *Dizionario grammaticale: per il buon uso della lingua italiana*. DeAgositini.
- Dardano, Maurizio. 1978. *La formazine delle parole nell'italiano di oggi*. Bulzoni.
- Dardano, Maurizio & Pietro Trifone. 1985. *La lingua italiana*. Zanichelli.
- Lepschy, Anna Laura & Giulio Lepschy. 1988. *The Italian Language Today*. New Amsterdam.
- Levi, Judith N. 1978. *The Syntax and Semantics of Complex Nominals*. Academic Press.
- Renzi, Lorenzo, Giampaolo Salvi, & Anna Cardinaletti. 1995. *Grande grammatica italiana di consultazione: III. tipi di frasi, deissi, formazione delle parole*. il Mulino.
- Rohlf, Gerhard. 1969. *Grammatica storica della lingua italiana e dei suoi dialetti: sintassi e formazione delle parole*. Piccola Biblioteca Einaudi.
- Serianni, Luca. 1989. *Grammatica Italiana: Italiana comune e lingua letteraria*. UTET.
- Scalise, Sergio. 1990. *Morfologia e lessico: una prospettiva generativista*. il Mulino.
- . 1994. *Le strutture del linguaggio: morfologia*. il Mulino.
- 上野貴史. 1995. 『イタリア語における合成語の構造: ハイフン語とその主要部』. 言語文化学会論集 第5号. pp.21-43.
- . 1996. 『イタリア語における《N+N》複合語の生成: Headと語形成レベル』. 言語文化学会論集 第7号. pp.21-42.
- . 1997. 『英語名詞複合語とイタリア語表現』. ニダバ(西日本言語学会編)第26号. pp.77-85.